

令和2年度「動物愛護の絵コンクール」審査講評

「なら動物愛護フェスティバル」の一環として行われた「動物愛護の絵コンクール」では、この令和2年度で第38回目を迎えました。今年度の募集でも、奈良県内の多数の小学生の応募があり、その作品数は2,144点を数えました。

出品された作品には、子ども達の動物に対する深い愛情が感じられ、犬や猫、ハムスター、小鳥といった身近な小動物から、牛、羊など中型動物、そして、動物園などで見られるぞうやきりんといった大型動物にいたるまで、実に幅広く描かれていました。また、その表現方法も、大好きな動物を観察していねいに描いたものや、いっしょに遊んでいる様子を描いたものや、愛情を込めて動物を世話している様子、動物との思い出をふりかえったもの、また、動物との未来を想像したものなど、幅広いものでした。どの作品にも、子どもたちの動物に対する温かい思いが感じられ、共に生きる動物のいのちを慈しむ、愛情豊かな表現になっていたと思います。

このコンクールを実施する動物愛護センターがある「うた・アニマルパーク」では、県内小学校において「いのちの教育」を推進されていますが、その広がりも相まって、子どもたちの動物のいのちを大切に思う気持ちや共に生きることへの関心の高さが、このコンクールからもうかがわれました。

今年もこのコンクールを通して、描いてくれた小学生をはじめ、作品を見る多くの県民の皆様が、動物のいのちの輝を再確認し、人と動物が共に幸せに生きてゆく社会を推進していただければと願います。

(審査員長)

奈良県図画工作・美術教育研究会 副会長 山田 知治